



今号内容

1～3 ページ

全国自立援助ホーム協議会 第 29 回福岡大会報告

4～6 ページ

一般生活費引き上げに伴うホームの取り組み

7 ページ

広報委員会主催茶話会

8 ページ

お知らせ

編集後記

全国自立援助ホーム協議会 全国大会 第 29 回 福岡大会 報告

福岡大会 実行委員長 國分 健作

全国自立援助ホーム協議会が主催する全国大会は、今年で 29 回目と、開催地が福岡に決定した時に 29 (ふく) と重なることもあった為、参加者の方に福が多い大会になればという想いも重ねて構成を検討しました。

全国のホーム数は増加を続けていて、全国大会参加者も増え続けています。前回大会の北海道大会は活気にあふれ、北海道ブロックの一体感も感じられるような素晴らしい大会でした。

今回、九州で開催することになり、同じような大会になればと取り組んでみましたが、議論がまとまらず半ば強引に決定することもあり、私自身の力不足を反省する機会になりました。

ブロック内のホーム数が 40 を超えている中で、様々な意見があることは当然のことです。はじめは会場選定、大会会場と懇親会会場を分けるか一緒の場所で行うか、また定員を 350 人とした時に会場の候補がどの程度あるのかを調べ、同一会場では 300 人以上を定員にできる会場は 2 か所程度に絞られました。ただし会場費が北海道大会よりも高額になる為、分科会を断念することになりました。



次に課題となったのは大会テーマでした。意見があるホーム長から候補を募り、いくつか絞って投票するような形で大会テーマを決定し、「シンカ～入居者にとっての自立とは何か～」このテーマを元に講演を考えました。運営役員の方から、地域支援について構成すべきでは、とご意見をいただき、実践報告とシンポジウムは地域支援について候補者を選定いたしました。構成は「過去・現在・未来」として、基調講演を過去、実践報告を現在、シンポジウムを未来と設定してプログラムを決定しました。大会で学びや気づきを得て、各ホームで入居者の支援に活かしていただけるような機会になれば、多幸福を感じていただけるのではないかと願いを込めて。大会に参加していただき皆様はいかがでしたか？



直前でプログラムの変更を生じてしまい、急遽時間配分を調整することになり、ご登壇いただく先生方にもご負担をかけてしまいました。また、大会当日に御来賓席を調整することになったこと等、会場内でもご迷惑をおかけすることになり、反省すべき点が多々見受けられた大会となってしまいました。

ただ、九州の風土としておもてなしの心は大切にしたいという考えから、懇親会には参加者の方が主役となれるように催し物は控えめにし、語り合える時間を多くとれるように構成いたしました。祝い樽は多幸福を分け合えるように選定し、ハーモニカ演奏の披露も行いました。

懇親会後は各自で 2 次会会場へ移動したり、各々が個別に集まり語らう等、それぞれ過ごしていたことも伺いました。

大会を振り返り思うことは、会員皆様ひとりひとり気遣いや判断力・行動力がある素晴らしい方ばかりで大変救われたことです。こんなに多くの頼れる仲間がいるのだということを再確認できた大会となりました。会員の皆様へ感謝の気持ちをお伝えできればと思いご報告とさせていただきます。



全国自立援助ホーム
協議会 第29回
福岡大会報告

研修概要

【 研 修 概 要 】

〔1日目〕 2024年11月5日(火)

1. 行政説明

講師:こども家庭庁支援局家庭福祉課 社会的養護専門官 篠原 修二氏

2. 基調講演

「すべての子にチャンスをも！～人生の大逆転 心の復興を求めて～」

講師:三浦一広氏

(NPO 法人奄美青少年支援センター

ゆずり葉の郷)



3. 実践報告 「地域支援と児童自立生活援助事業Ⅱ型の取り組み」

講師:坂口明夫氏 (社会福祉法人 甘木山学園理事

子ども家庭支援センターあまきやまセンター長

児童養護施設 甘木山学園 支援部長)

〔2日目〕 2024年11月6日(水)

4. シンポジウム 「～地域支援について～」

ファシリテーター: 矢野茂生氏

(特定非営利法人おおいた子ども支援ネット 理事長)

パネリスト: 山村レジーナ氏 (レミシンググループ CEO)

北川聡子氏 (一般社団法人日本ファミリーホーム協議会 会長)

橋本達昌氏 (全国児童家庭支援センター協議会 会長)



「福岡大会に参加しての感想」

全国自立援助ホーム
協議会 第 29 回
福岡大会 感想

みずきの家
中山 俊介氏

DaBeRi 場 in つむぎ
河野 翔大氏

みずきの家 中山 俊介



大会1日目は、こども家庭庁からの行政説明をいただいた後で、30年間にわたって非行等の課題を抱えた青少年3万人の立ち直りを支援してこられた三浦一広氏の講演がありました。「こどもたちは全身全霊で自分を守ってくれる人がいると理解した時に初めて安心し、立ち直り、前に進むことができます。過去を許し、認め、褒め、励まし、感謝することです。」との言葉や、無私の姿勢で包容力のある実践に、大変感銘を受けました。

続いては、坂口明夫氏による地域支援に関する実践報告でしたが、複雑な家庭事情の中でこども時代を過ごされた当事者としての経験を踏まえての「支援は始縁」、「受援力は受縁力」という説得力のある言葉や、支援のニーズを察知して即座に地域と連携、協働されている行動力は、大きな励ましになりました。

講師のお二方とは、みずきを家のスタッフが、夜の意見交換会でそれぞれ名刺交換をさせていただきましたが、三浦氏は、後日みずきの家へ電話をくださり、「講演先から飛行機に乗るまでに少し時間があつたので、電話しました。まずはスタッフが元気じゃないといけないから、疲れないようにやりましょうね。」と声をかけてくださったのです。坂口氏におかれましても、リクエストに応じて即座にメールで追加の資料を送付してくださいました。支援に駆け回るお二方の相手を気遣う思いやりと行動力を目の当たりにして感激し、「これぞ支援だ！」との貴重な学びを体感する機会でした。

社会的養護自立支援拠点 DaBeRi 場 in つむぎ 河野 翔大



今回、山口県の社会的養護自立支援拠点「DaBeRi 場 in つむぎ」の支援員として福岡大会に参加させていただきました。当拠点は児童自立生活援助事業の一部受付窓口(※)を担っており、この大会を通じて事業の成り立ちや理念について理解を深める貴重な機会となりました。

特に2日目のシンポジウムでは、多職種連携の重要性や地域支援の在り方について学びました。在宅支援や代替え養育の選択肢が広がる中、こどもの権利擁護を基盤に住み慣れた地域での継続的支援の課題と解決策が議論されました。

山村氏は「支援者支援」の重要性や、家族支援が若者本人の安定や家族再統合につながることを指摘され、北川氏からは「不登校は問題行動か？」という問いを通じ、不登校支援への新しい視点を学ばせていただきました。橋本氏は地域支援の実践を紹介し、「できるだけ早く」「できるだけ長く」「できるだけ地域で」の言葉に感銘を受けました。

シンポジウムで共有された支援モデルは、多職種連携を強化し、こどもの最善の利益を追求する基盤になると実感しました。このような学びの場に参加できたことに感謝いたします。

※山口県独自の制度で、18歳以上で自立援助ホームに入居を希望する場合、社会的養護自立支援拠点事業所がその受付窓口となる。

一般生活費の
引き上げに伴う
ホームの取り組み
について

KOKOKARA
高橋 麻子氏

一般生活費引き上げに伴う ホームの取り組みについて

マルコの家 野原 知子

はじめに

今年度、一般生活費が増額されました。

それをどのように利用者に還元していくかは、各ホームの状況、方針によって多様であると思います。

就労して給与から利用料を納め、貯金をし、自立の準備をする、多くのホームがそうであった従来の自立援助ホームの在り方も入居者も、時流の変化により益々多様になってきました。

いわゆる社会的養護を経験せずにホームに入居する利用者の増加に伴い、生活を共にするうちに彼、彼女らの「体験格差」を痛感されることも多いのではないのでしょうか。年齢に応じた経験を積む、安全で健やかな生活の心地良さを体験することも自立の一助になると考えます。

一般生活費の増額が「利用料を取る、取らない」の議論に終始することなく、利用者の将来を見据えて必要なことは何か、利用者の意見を聴きとり話し合える環境であることを願いたいと思います。

今回 3 ホームから、それぞれの取り組みや困惑についても率直にご寄稿いただきました。お読みいただいた感想もお寄せいただけますと幸いです。

ご多忙の中、ご寄稿くださった皆様に心よりお礼申し上げます。

KOKOKARA 高橋 麻子

当ホームでは以前より施設利用料の設定を高校生1万円・大学生、社会人3万円と設定していましたが一般生活費の引き上げにより全利用者の利用料を1万円に統一しました。また、洗濯をきちんと出来ない利用者が、真冬でも素足で外出したり、Tシャツがなく素肌にトレーナーやセーターを着ている、パンツがないから今日は履いていない、などの状況を受け下着の支給を行う事にしました。

発達障がいがあり、毎日入浴の出来ない利用者もいるので最低限の清潔を保つために毎日常替えをする事や、定期的な洗濯にスタッフが声掛けをして支援を行っています。

具体的には下着(Tシャツ)・パンツ・靴下を購入し、支給しています。また、地域のイベント等に参加する際にはホームで作成したオリジナルTシャツやジャンパー、靴等の支給も行っています。

また、以前はシャンプー・コンディショナー・ボディソープは安価なホームセンターのオリジナルブランドのものを常備していました。利用者からは質が悪いとクレームが多く、バイトして自分で専用の物を買っている子もいましたが、現在はそこそこの人気商品(利用者の希望するもの)を常備しています。

三宿憩いの家
松木 良介氏

三宿憩いの家 松木 良介

三宿憩いの家では(今年度の)一般生活費の引き上げに伴い、利用者に日常生活では体験できないことを経験してもらうため旅行を企画しました。行き先は利用者に希望先を聞き、希望の多かった「ユニバーサルスタジオジャパン」に決まりました。また、大阪に行くのが初めての子たちも何人かいたので、大阪もしっかりと満喫できる行程に計画しました。旅行の感想を3人の利用者から聞いたので、掲載します。

Aさん:ホテルのベッドがフカフカで気持ちよかったです。折角の旅行なので夜更かしするつもりだったのに、すぐ寝てしまいました。ホテルの朝食がおいしすぎて、食べ過ぎてしまいました。昼ごはんがいらなくらいでした。ユニバーサルスタジオは楽しかったです。乗り物にも十分乗ることができましたが、暑すぎました。

Bさん:ホテルの朝食がおいしくて、とても良かったです。
大阪の夜の街(道頓堀やミナミ)を散策したことが楽しかったです。
ユニバーサルスタジオでは苦手な絶叫系には乗らなかったが、パーク内のカフェなどの雰囲気を楽しめました。

Cさん:ユニバーサルスタジオではアトラクションに何回も乗ることができたが、まだまだ乗足りなかったです。

最後に今回の「一般生活費の引き上げ」のように生活の質の向上や経験の拡大のために希望することがあるか、聞いてみました。

Aさん:最近、一人暮らしをすることを考えています。スタッフの人から一人暮らしを支援してもらえる事業(社会的養護自立支援強化事業)があると聞きました。とてもありがたいのですが、その期間をもう少し長く、年齢の制限などをゆるやかにしてもらえると一人暮らしの不安が軽減されます。

Bさん:進学を希望していて、そのために塾に通いたいと思っています。しかし、塾代などのお金が充分ではなく、自分の希望する授業が受けられません。通塾の費用などを出してほしいと思います。

最後の希望は現在の生活のことよりも「将来のため」の支援をもう少し充実させてほしいという意見が出ました。

現状の生活の質の向上はもとより、退居後の生活を見据えた手厚い支援が必要であることが今回の感想から再認識することができました。

イメル・ラム
村岡 のぞみ氏

イメル・ラム 村岡 のぞみ

一般生活費が変更となり、入居児童にとってどう変化があったのか？

女子棟・男子棟共に一般生活費が変わり、恩恵を受けたのか？と改めて聞かれると大きな差は感じられない。

しかし、今まで就労も長続きせず、ホーム費を滞納している子どもが多く、その子どもたちの中には「ホーム費が払えない」「迷惑をかけてしまう」と追い詰められてしまっている子どももあり、そういう子どもにとっては「一般生活費が変更になったから、ホーム費は払わなくて良いよ。」と言ってあげることができるようになったことで、子どもにとってはいくらかの負担軽減になったのではないかと感じる。

逆に、「ホーム費を払わなくて良い」となり、「働かなくても良い」「自分の好きに使える」などと考える子どもも一定数いることも事実であり、「楽できる」という安直に捉えてしまう子どもたち。「自立」と考えたときに一概に「ホーム費を徴収しない」となるのは慎重に考える必要があるのではないだろうか。

イメルに入居している子どもたちと「ホーム費」について話をした。

やはり多数の子どもたちが、「払わないで良いなら払わない」と回答。

ホームを出たあと、「ホーム費」ではなく「家賃」として毎月払わなければならないお金であり、ホームだから払わないで良いとはならないことを説明。

全日制の高校へ通学している子どもについては、一般生活費の中からホーム費として徴収する形にするか、徴収したホーム費を貯蓄し退居時に渡してあげるのが良いのか、現時点では答えが出ない。

入居児童の発達特性や理解力に応じて対応策を考えなければならず、入居児童全員同じ扱いというのは難しく感じている。

※参考

児童入所施設措置費等国庫負担金

(交付要綱等)

- 児童福祉法による児童入所施設措置費等国庫負担金
- について (令和6年5月10日こ支家第47号)
 - [改正後全文 \(PDF/922KB\)](#)
 - [新旧対照表 \(PDF/1,159KB\)](#)
- 「児童福祉法による児童入所施設措置費等国庫負担金について」通知の施行について (令和6年5月10日こ支家第49号)
 - [改正後全文 \(PDF/906KB\)](#)
 - [新旧対照表 \(PDF/2,154KB\)](#)

広報委員会主催
茶話会

広報委員会主催 ZOOM 茶話会

広報委員会主催の ZOOM 茶話会を実施致しました。
参加者の感想を紹介させていただきます。

海北 弘中 真司(広報委員会)

広報委員主催の茶話会を開催しました。13名の職員が参加し、入職5年以上、5年未満で各2グループに分かれ、私は5年未満のグループでファシリテーターとして参加しました。グループの話し合いの中で、一つの疑問、悩みに答えは一つではないと感じました。私個人としては、日々利用者に携わる職員の熱量・仕事へのひたむきな姿勢に刺激を受け、今後も多くの職員とこのような時間を共有できればと感じました。

カリス・ホーム 片山 愛実

初めて茶話会に参加しました。研修ではなく茶話会なのでお気軽に、といちばん最初にことわってくださったので気軽に会話することができました。急な電話の対応などが起こる場面もあり、遠い場所でも今まさに自立援助ホームの職員として活動して同じお仕事をされているんだな、という実感が湧いて嬉しくなりました。対面での機会も増えて喜ばしい限りですが、オンラインでもまた参加させていただきたいです。

オーレの家 室田 誠一

今回初めて参加させていただきました。群馬県では自立援助ホームが2箇所しかなく情報共有が少なかった為、全国の方々の悩み事や解決方法などを聞かせて頂けて大変参考になりました。共通する悩みが多く、他のホームにも同じ様な児童が居るとの事で少し安心もできました。研修とは違い気軽に話が出来る場として次回も参加したいのですが、今回の参加者の中で男性が私だけであったので、男性の皆様に参加をお勧めします。

ソレイユ 大塚 亜弥

初めて茶話会に参加をさせていただきました。全国各地の方々とオンラインでお話出来る機会をいただけて、他の自立援助ホームでの取り組みや活動内容を聞くことが出来て日々の支援を行う活力になりました。また、支援を行う上で悩んでいることを他のホームでも同じように悩んでいることを知り、一人じゃないと思うことが出来ました。今後も同じような機会がいただけると大変ありがたく思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

お知らせ

編集後記

お知らせ

第 17 回全国自立援助ホーム長研修会・総会

日 時 : 令和7年4月24日(木)~25日(金)

1 日目 研修会 10:00~18:00

午後から参加の方は、13:00~

2 日目 総 会 9:00~12:00

場 所 : ヒルトン名古屋 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 1-3-3(5階扇の間)

参加申込み : 定員 350 名 申込締切 4/10(水)23:59

申込は下記申込フォームより

<https://forms.gle/nKXidCtpXPjquVkd9>



【編集後記】

東北ブロックから広報委員として活動させていただいて、早2年が経とうとしています。今回で24号となった協議会たよりますが、私自身、委員会に入る前は、記事の選定や編集の裏に、委員の想い、葛藤がこんなにもあるということを知りませんでした。全国のホームの皆さんに少しでも興味を持って読んでいただけるように、今後も工夫、検討を重ねながら作成していきたいと思っています！

委員会は概ね月一回、オンラインで行っていますが、議題の他に、委員同士のちょっとした近況報告もほっとするひとときです。今回、記事の中でも報告いたしましたが、広報委員会としてオンラインでの茶話会を実施しました。スタッフの人数が限られている中で、なかなか対面の研修に参加できないホームも、オンラインなら移動時間や距離に縛られることなく、全国のスタッフと交流することができます。便利な時代になりました。支援のヒントが欲しい時、ちょっと疲れてしまった時、少しだけ外に目を向けてみると、意外な発見があったりするものです。

日々、入居者と向き合って、悩みながら奮闘している皆さんのお力になれるよう、来年度も協議会たよりをはじめ、有意義な広報活動を企画していきたいと思えます。

NEXT 小法師 丹治 梨佳